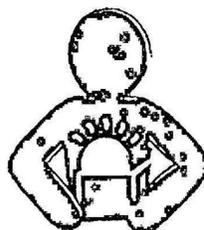
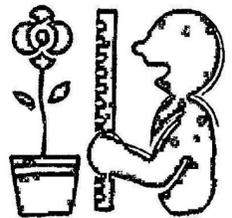
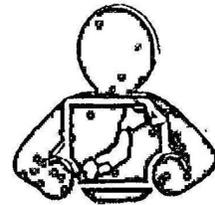
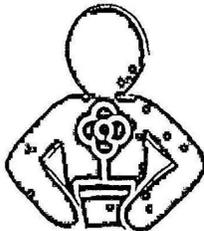
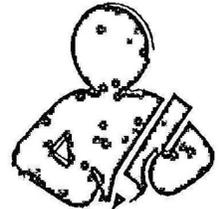
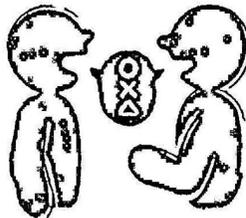
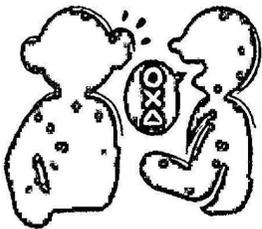
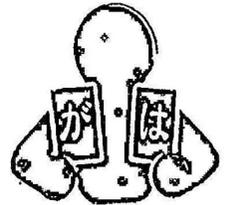
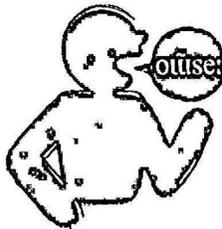
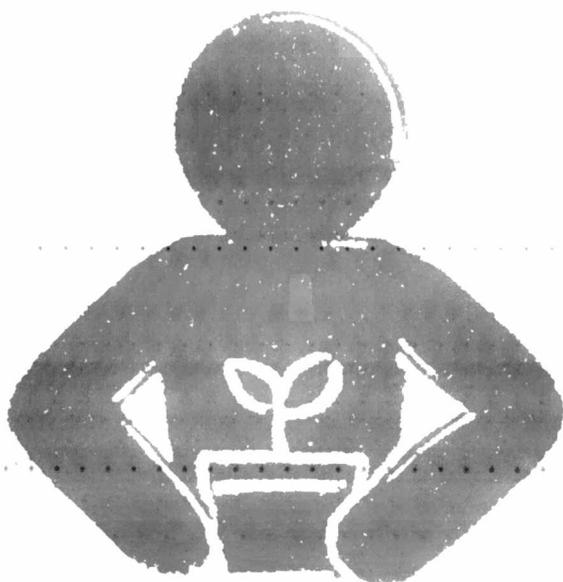


初級を教える



初級を教える

国際交流基金 著



国際交流基金 日本語教授法シリーズ

【全14巻】



第1巻 「日本語教師の役割／コースデザイン」



第2巻 「音声を教える」 [CD-ROM付]



第3巻 「文字・語彙を教える」



第4巻 「文法を教える」



第5巻 「聞くことを教える」 [CD付]



第6巻 「話すことを教える」



第7巻 「読むことを教える」



第8巻 「書くことを教える」



第9巻 「初級を教える」



第10巻 「中・上級を教える」



第11巻 「日本事情・日本文化を教える」



第12巻 「学習を評価する」



第13巻 「教え方を改善する」



第14巻 「教材開発」

■はじめに

国際交流基金日本語国際センター（以下「センター」）では1989年の開設以来、海外の日本語教師のためにさまざまな研修を行ってきました。1992年には、その研修用教材として『外国人教師のための日本語教授法』を作成し、主に「海外日本語教師長期研修」の教授法の授業で使用してきました。しかし、時代の流れとともに、各国の日本語教育の状況が変化し、一方、日本語教授法に関する研究も発展したため、センターの研修の形や内容もさまざまに変化してきました。

そこで、現在センターの研修で行われている教授法授業の内容を新たにまとめ直し、今後の研修に役立て、また広く国内外の日本語教育関係のみなさまにも利用していただけるように、この教授法シリーズを出版することにしました。この教材の主な対象は、海外で日本語教育を行っている日本語を母語としない日本語教師ですが、広くそのほかの日本語教育関係者や、改めて日本語教授法を独りで学習する方々にも役立てていただけるものと考えます。また、現在教師をしている方々を対象としていますが、日本語教育経験の浅い先生からベテランの先生まで、できるだけ多くのみなさまに利用していただけるよう工夫しました。

■この教授法シリーズの目的

このシリーズでは、日本語を教えるための必要な基礎的知識を紹介するだけでなく、実際の教室で、その知識がどう生かせるのかを考えてもらうことを目的としています。

国際交流基金日本語国際センターでは、教師の基本的な姿勢として、特に次の能力を育てることを目的として研修を行ってきました。その方針はこのシリーズの中でも基本的な考え方となっています。

1) 自分で考える力を養う

理論や知識を受身的に身に付けるのではなく、自分で考え、理解して吸収する力を身に付けることを目的とします。

2) 客観性、柔軟性を養う

自分のこれまでの方法、考え方にとらわれず、ほかの教師の意見や方法を知り、客観的に理解し、時には柔軟に受け入れることのできる教師を育てることをめざします。

3) 現実を見つめる視点を養う

つねに現状や与えられた環境、自分の特性や能力を客観的に正確に把握し、自分の現場に合った適切な方法を見つける姿勢を育てることをめざします。

4) 将来的にも自ら成長できる姿勢を養う

研修終了後もつねに自分自身で課題を見つけ、成長しつづける自己研修型の教師を育てることをめざします。

■この教授法シリーズの構成

このシリーズは、テーマごとに独立した巻になっています。どの巻からでも学習を始めることができます。各巻のテーマと概要は以下の通りです。

- | | | |
|----------------------|---|-------------------------------------|
| 第1巻 日本語教師の役割／コースデザイン | } | 日本語を教えるうえでの全体的な問題を取りあげます。 |
| 第2巻 音声を教える | | |
| 第3巻 文字・語彙を教える | } | 各項目に関する基礎的な知識の整理をし、具体的な教え方について考えます。 |
| 第4巻 文法を教える | | |
| 第5巻 聞くことを教える | | |
| 第6巻 話すことを教える | | |
| 第7巻 読むことを教える | | |
| 第8巻 書くことを教える | | |
| 第9巻 初級を教える | } | 各レベルの教え方について、総合的に考えます。 |
| 第10巻 中・上級を教える | | |
| 第11巻 日本事情・日本文化を教える | | |
| 第12巻 学習を評価する | | |
| 第13巻 教え方を改善する | | |
| 第14巻 教材開発 | | |

■この巻の目的

かん もくてき

この巻は、日本語でコミュニケーションできる能力を身に付けることを目的とする初級のコースで、学習者に何をどのように学習させていったらよいかを考えます。特に、教科書を分析し、学習内容と学習目標を決め、授業の流れや活動の方法を考える「授業設計」について取りあげ、各自の教育現場への応用を具体的に考えます。

この巻の学習目標は以下の3点です。

- ①初級のクラスの学習目標を考えられるようにします。
- ②言語習得の過程にそった授業の流れを理解し、段階に応じた活動を考えられるようにします。
- ③コミュニケーション能力を身に付けることを目標とした初級の授業が設計できるようにします。

■この巻の構成

かん こうせい

1. 構成

こうせい

本書の構成は以下のようになっています。

1. 初級で身に付けさせたい能力

*さまざまな外国語能力がどのように説明されているか、コースの到達目標がどのように書かれているかを知り、自分のコースの目標を確認する。

2. コミュニケーション能力を育てる授業

のうりよく そだ じゅぎょう

*学習者の習得過程にそった授業の流れと、それぞれの段階にあった活動の方法を知る。

*さまざまな活動を紹介し、各自のクラスへの応用を考える。

3. 授業設計

*授業設計の方法を知り、教科書の1つの課について授業設計を行う。

*1時間分の授業を実施し、評価する。

2. 各章の構成

かくじょう こうせい

次のような内容に分かれています。



ふり返りましょう

かえ

自分自身の体験や教え方を振り返る

知っていること、実際に行っていることなどを思い出し、次の「考えましょう」の準備をします。



考えましょう

活動や実践の意味を考える

さまざまな教え方や考え方を紹介し、その意味を理論的な背景と照らし合わせながら考えます。



やってみましょう

新しい方法を体験する

活動を考えたり、授業設計を行ってみたり、そこで扱われることの意味を考えながら自分の現場に合わせてやってみます。



整理しましょう

さまざまな方法を整理し、理解する

ここまで考えたこと、学んだことをもう一度整理して、その目的や意味を再確認し、今後の授業に生かしていけるようにします。

3. 各課題

【質問】や《課題》は、次の2点を重視しています。

ほかの人の教え方や新しい方法を知る

◎グループやクラスで教授法を学んでいる場合：

ほかのメンバーや教師とのディスカッションを通して、ほかの人の考え方や解決方法を知り理解します。協働学習をお勧めします。

◎独りで教授法を学んでいる場合：

まず自分で考えてから、解答例を参考にもう一度考えてみてください。できれば、積極的に同僚やまわりの人の意見も聞くようにするとよいでしょう。

自分の教育現場への適用を考える

授業設計や教え方を知識として理解するのではなく、常に自分自身の教育現場に当てはめて考え、どのように実際の教育現場で実現させるかを考えるようにしましょう。

目次

1	初級で身に付けさせたい能力	2
	1-1. 初級の学習者ができること	2
	1-2. 初級段階で教えること	4
	1-3. 学習目標を立てる	8
2	コミュニケーション能力を育てる授業	12
	2-1. 授業の流れ	12
	2-2. 導入で行う活動	14
	2-3. 基本練習で行う活動	19
	(1) 文型練習	
	(2) 意味を考えてする基本練習	
	2-4. 応用練習で行う活動	28
3	授業設計	38
	3-1. 授業設計の手順	38
	3-2. 教科書の分析	40
	(1) 学習項目の整理と分析	
	(2) 課の構成と本文や練習問題などの分析	
	3-3. 学習目標の設定	46
	(1) 課の学習目標	
	(2) 1回の授業の学習内容と学習目標の設定	
	3-4. 教案の作成	50
	3-5. 授業実践と授業評価	52
	(1) 教師としての目標と評価	
	(2) 授業中のフィードバック	
	(3) 授業後の評価	
	コラム JF日本語教育スタンダードに基づいた教材	
	解答・解説編	60
	【参考文献】	77

1

初級で身に付けさせたい能力

しよきゅう み つ のうりよく

1-1. 初級の学習者ができること

しよきゅう

聞いたことも習ったこともない外国語でコミュニケーションすることはできません。外国語でコミュニケーションができるようになるために、何をどのように学んでいったらよいか考えていきましょう。



ふり返りましょう

かえ

【質問 1】

- 1) みなさんは初めて日本語を学習する人に教えた経験がありますか。最初の授業で何を教えましたか。
- 2) みなさんが初めて外国語（日本語が母語でない人は日本語）を学習したときのことを思い出してください。学習しはじめたころ、難しかったのはどのようなことでしたか。



考えましょう

【質問 2】

日本語を学習しはじめたばかりの学習者が、日本語で自己紹介することになりました。自己紹介ができるようになるために、何が必要ですか。単語や表現などの知らなければならないこと（知識）と、できなければならないこと（技能）にわけて考えてみてください。

知識

ちしき

例) 単語 (学生、会社員、……)

表現 (はじめまして、……)

ひょうげん

技能

ぎのう

例) 発音 (日本語の 50 音、アクセ

ント、……)